

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二二二七二〇七

デッチ上げである以上、『現場検証』を強行しようとも「ツジツマ」が合うわけがない

『4・11暴力事件』デッチ上げ弾劾の4

動労革マル松崎と土屋粹のデッチ上げ告訴を受けた千葉西警察署は土屋粹の協力を得て、四月十六日、幕張電車区における「現場検証」を強行した。デッチ上げ逮捕を狙った「ツジツマ」合わせのための「現場検証」である。われわれは、権力の職場介入を徹底的に弾劾するとともに、あらゆる手段をもってしてもこの弾圧を粉碎しぬくことを明らかにする。

土屋粹―率先して現場検証に協力

十六日九時すぎから行われた幕張電車区での現場検証は、千葉西署員十二名、土屋粹ら本部派三名、そして動労革マルお抱え弁護士・渡辺千古などが立ち合いと称して参加した。

目的は、区管理者に圧力をかけ土屋の証言とツジツマを合わせようとするものだ。権力は、幕張本郷駅の橋上より二名が電車区内を監視し、電車区一体を権力の弾圧下におく一方、庁舎内は運行部から派遣された職制が「外へは出るな」と恫喝し、電話もかけられない異常な体制をしく中で強行された。

「ツジツマ」が合わないのは当たり前

現場検証は、デッチ上げの張本人である土屋粹が「椎間板性腰痛症」で「乗務すらできない状態」であるにもかかわらず、率先して権力の前でゼッケンを付け、小踊りしておこなっていた。

しかし、いくら土屋が踊ろうとも、目的の「土屋と区管理者の証言のツジツマ」合わせができるわけがないのである。なぜならば、「暴力」や「手帳・ボールペンの取り上げ」などという「事実」がないからこそ当局は「現認」していないのであり、何よりもそれがデッチ上げである

からだ。今回の現場検証は、この食い違いに対して「土屋に合わせる」よう、区管理者に圧力をかけようとするものだ。

さらに、当日、食堂の従業員や関連会社社員が土屋のすぐ近くにおいて「全然知らなかった」といつているにもかかわらず、土屋の主張に合わせるように働きかけているような動きもあるのだ。

まさに、権力・当局・動労革マル松崎一体となった「総ぐるみ」のデッチ上げを行おうとしているのだ。絶対に許すことはできない。

中江選挙、職場を動労革マルから防衛せよ

今回のデッチ上げの本質は、国鉄労働運動解体―企業一組合へ向けた攻撃の一環である。権力・当局・動労革マル一家となり、千葉をたたき、仕事を取り上げ、強制配転・出向攻撃を強行し、動労千葉を破壊しようとするものだ。

また、十五日夜には動労革マルが中江選挙事務所に対して「イヤがらせ」の電話をしてくるなど、動労千葉の進撃に対する恐怖がデッチ上げや選挙への妨害という行動に革マルを走らせているのだ。敵の行き詰まりの証明だ。

われわれは、絶対にデッチ上げを粉碎する。労働者を権力に売り渡す動労革マルと土屋一派を職場から追放・一掃する。そして、動労革マルの妨害から中江選挙を防衛し、中江選挙闘争に勝利しよう。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ